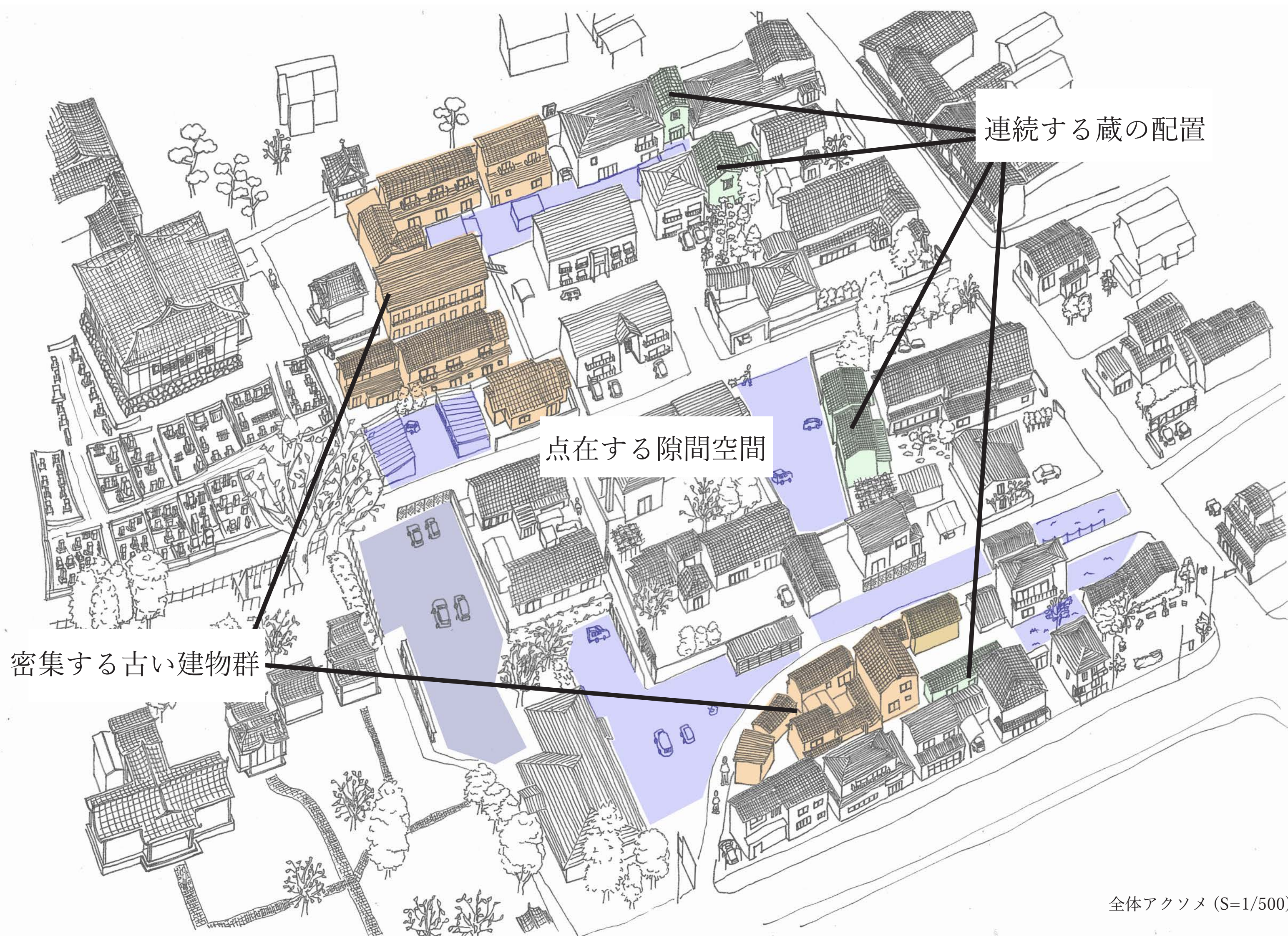




関わり、逢う

■現状分析 (STEP0)



・密集する古い建物群



対象街区の北側と南側には、今後老朽化し空き家になるであろう古い建物群が存在している。

・連続する蔵の配置



須坂の文化を代表する蔵が一直線上に残存している。

・点在する隙間空間

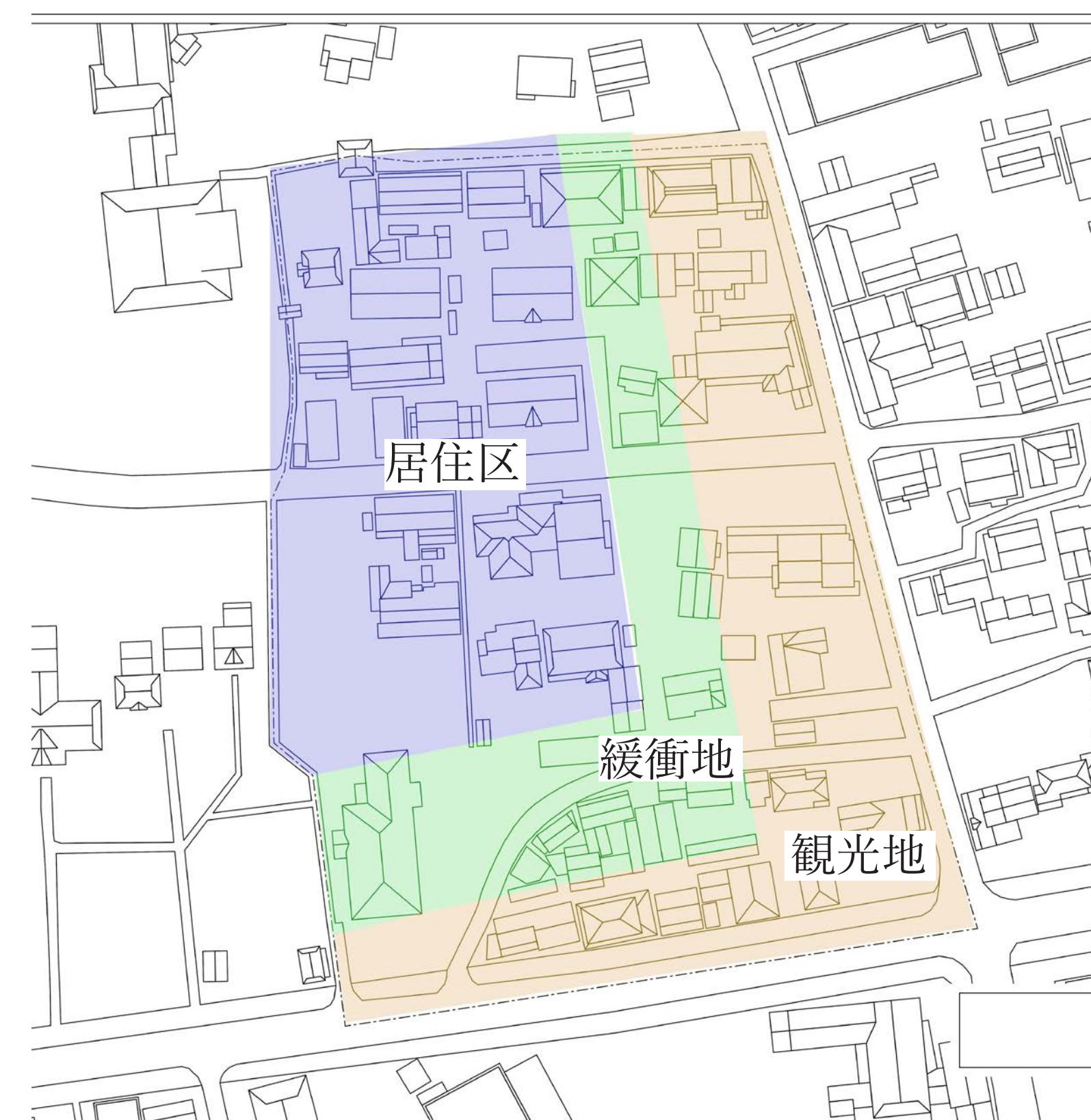


街区には駐車場や空き地、また使い勝手の悪い隙間など、もったいない空間が多くみられる。

■周辺調査



■ゾーニングの設定



・居住区

街区の北西部には商業施設が少なく、民家が建ち並んでいて静かな印象が見受けられる。よって街区の北西部を居住区に設定した。

・緩衝地

パブリックとプライベートの境目を両者が交わる緩衝地とした。

・観光地

町屋の風景や蔵の街並みが続き、観光地に隣接している街区南東側は観光地の延長線上として利用してもらう。

■設計趣旨

この街区を自ら歩いてみたとき、足りないと感じたものはいくつかあったが、その中でも一番印象に残っているのは”道で行き会う住民””空き地や道端で遊ぶ子供の姿”などといった日常の風景が見られなかったことである。しかし、これらは街区内部における操作で直接的に取り戻せるものではないと考えている。

そこで、今回の設計では街区内部に新たな道を引き、観光客という新しい風を引き込むことにより生まれる観光客 × 住民という関わり合いをもとに賑わいを取り戻し、その関わり合いの中から街区を発展させていき、最終的に住民、子供、観光客が自由に関わり、逢える街区を目指すというものである。

■STEP の設定

STEP1

- ・蔵を表層化させ、利用するために街区内部に新たな動線を引く。

- ・3か所に点在する蔵をそれぞれ住民主体で運営する、須坂の文化と歴史を知ってもらうための商業施設に改修する。



街区内部に観光客を引き込み、新たに観光客 × 住民の関わり合いが生まれる。

STEP2

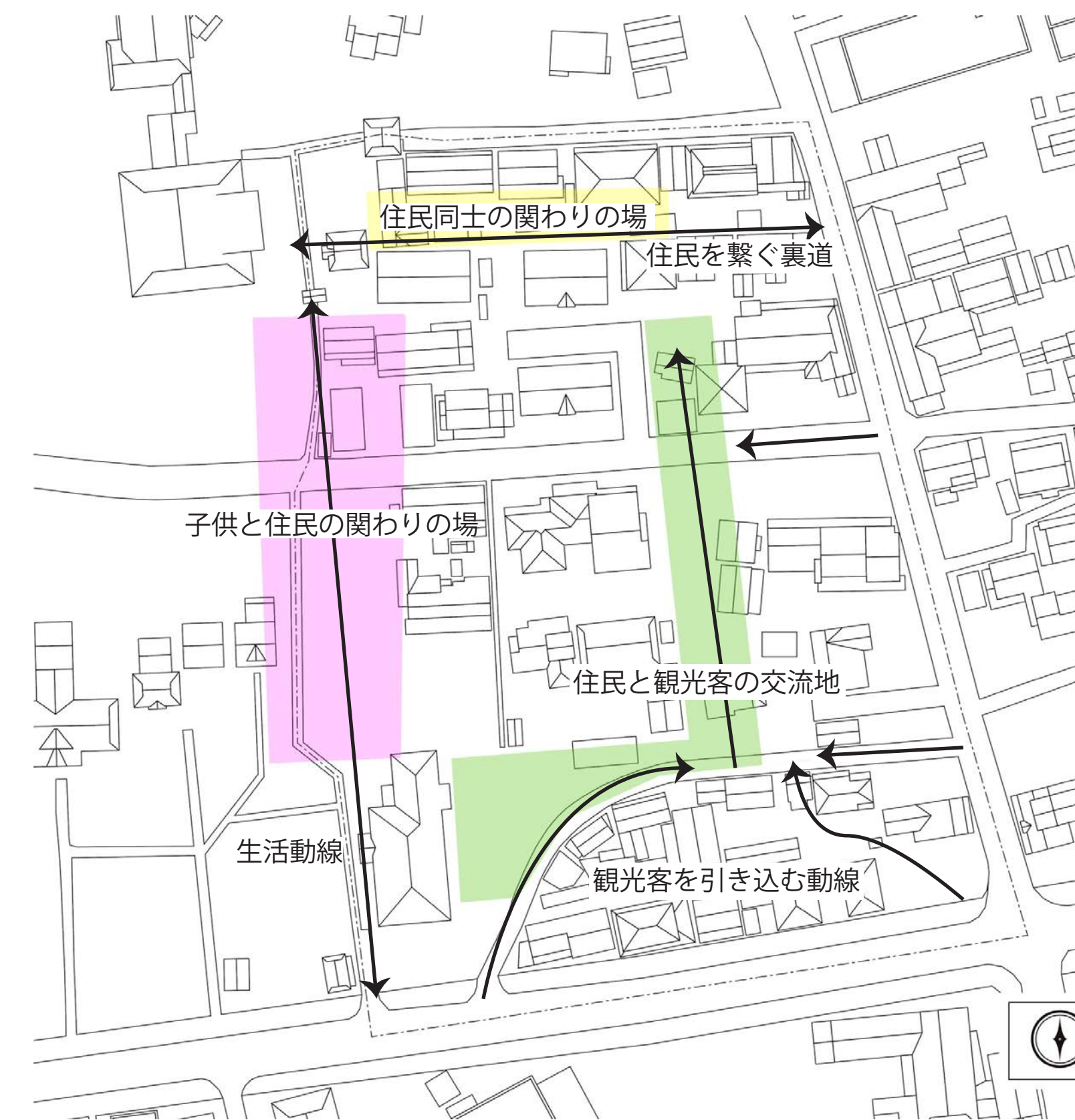
- ・観光地に存在する数々の空き地、駐車場といった隙間空間を利用するため、道脇に住民と観光客が関わることのできるスペースを設ける。

- ・居住区南側に建ち並ぶ住居の老朽化、空き家化が顕著になるので、それぞれをご育て世代向けの賃貸へと住民が利用できる共用の食堂へと改修。



観光客 × 住民、または住民同士の関わり合いにより3つの道が独自の進化を遂げる。

■ダイアグラム



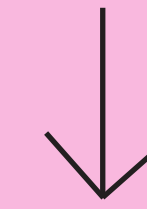
元々歩くための動線が少なく、道端での交流や憩いが生まれにくかった街区に、新たに3種類の動線を引く。

これらの道は関わり合いの対象や利用形態によって独自に進化し、街区に適した空間を生み出す。

STEP3

- ・転入してきた子育て世代、またその子供に向けて学びの場、成長の場を設ける。

- ・子供が学区に向かう通学路、また住民の主な生活動線になるであろう西側の道をリデザインする。



これらの新たな道、空間ができることにより住民、観光客、子供すべてが主役となれる街区へと変貌する。

STEP1

新しい風

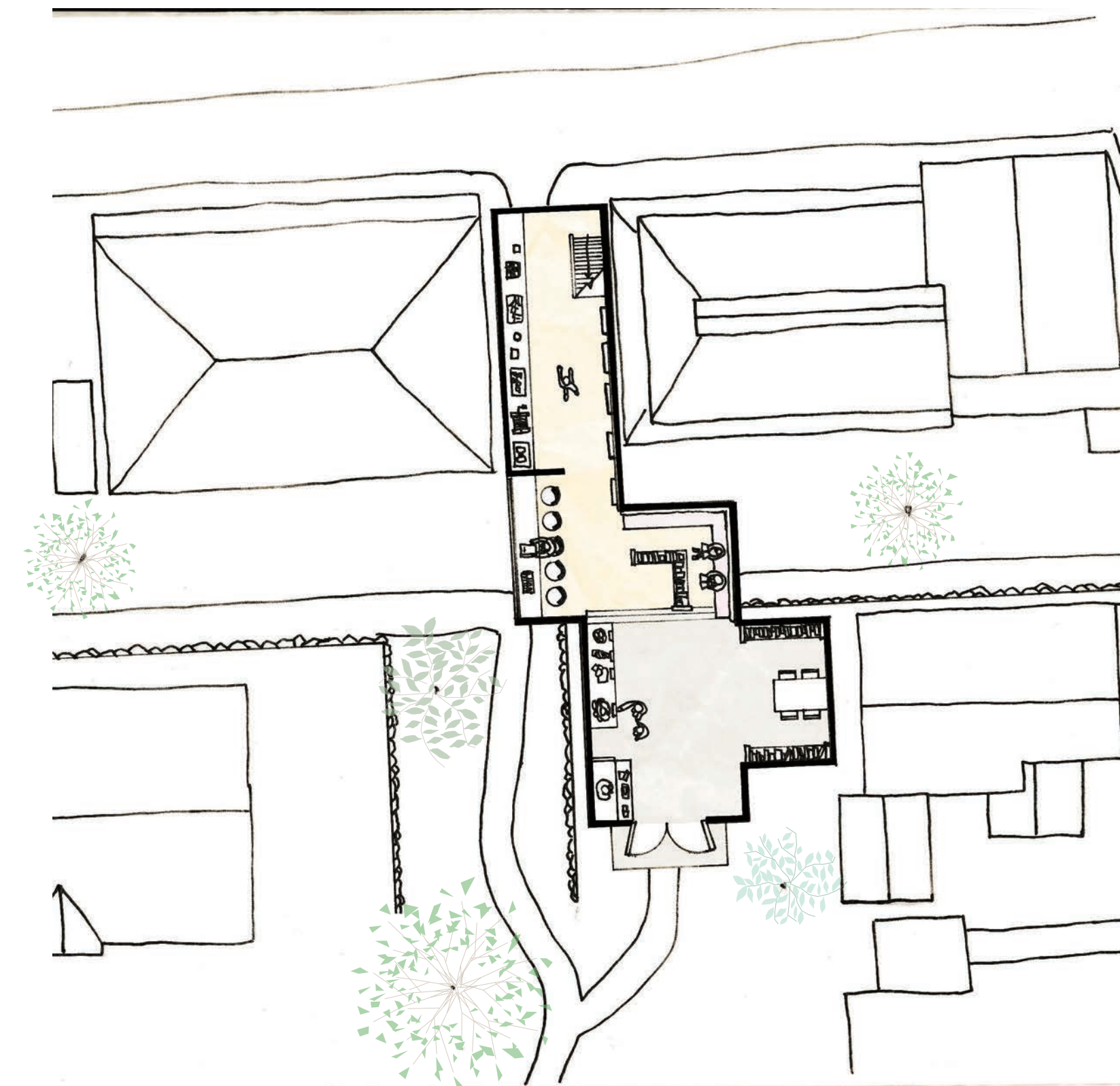
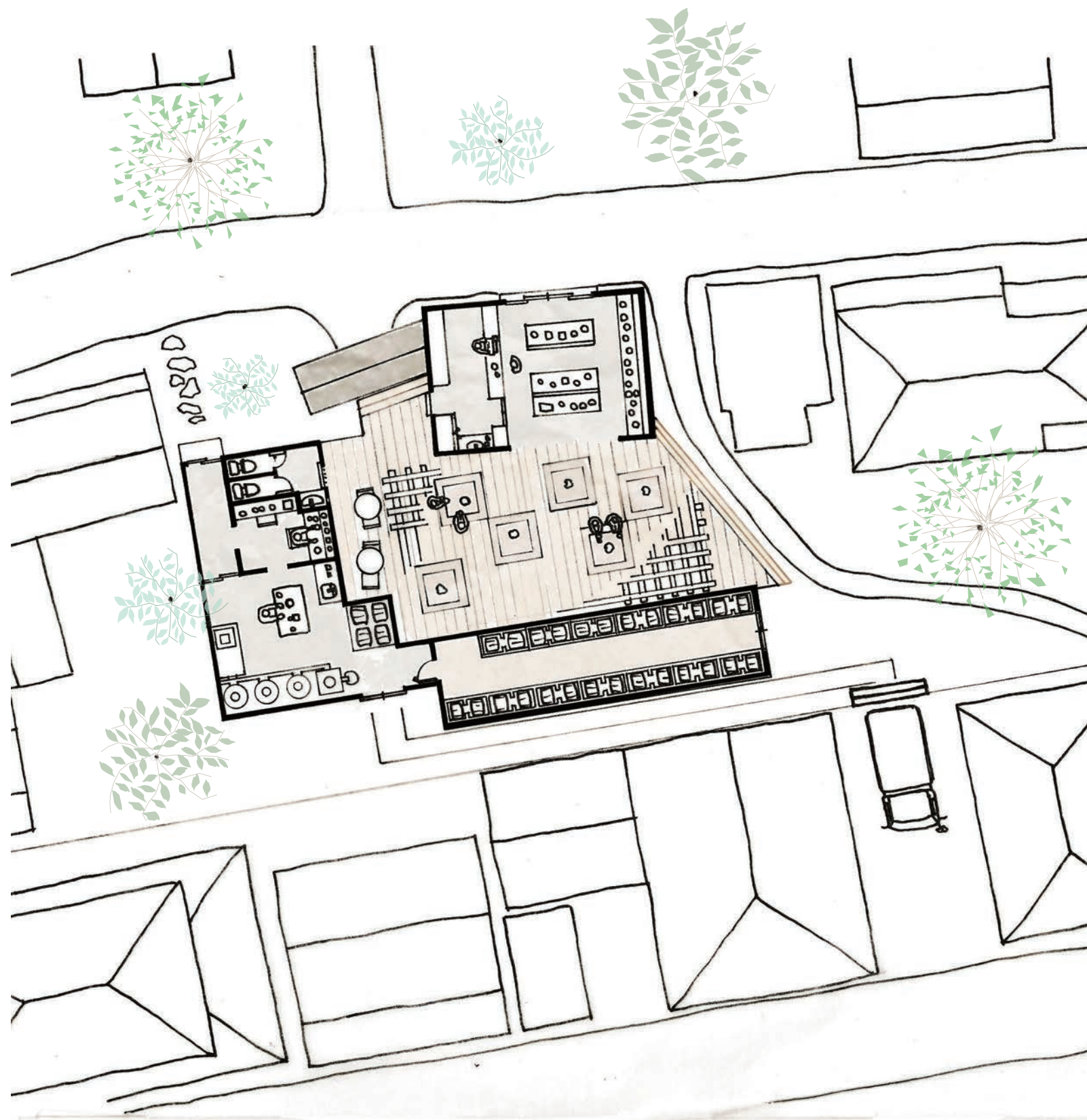
観光客を引き込む動線を新たに引き、連続性を持ち3か所に位置する土蔵を表層化させる。この土蔵をそれぞれ須坂の文化や歴史を感じることものできる施設へと改修することにより街区に観光客を取り入れ、新たな関わり合いを生む。



新たな道を通すことによって土蔵の表層化を行う。



土蔵をそれぞれ役割を持つ施設に改修。



平面図はすべて (S=1/200)

・須坂ワイナリー

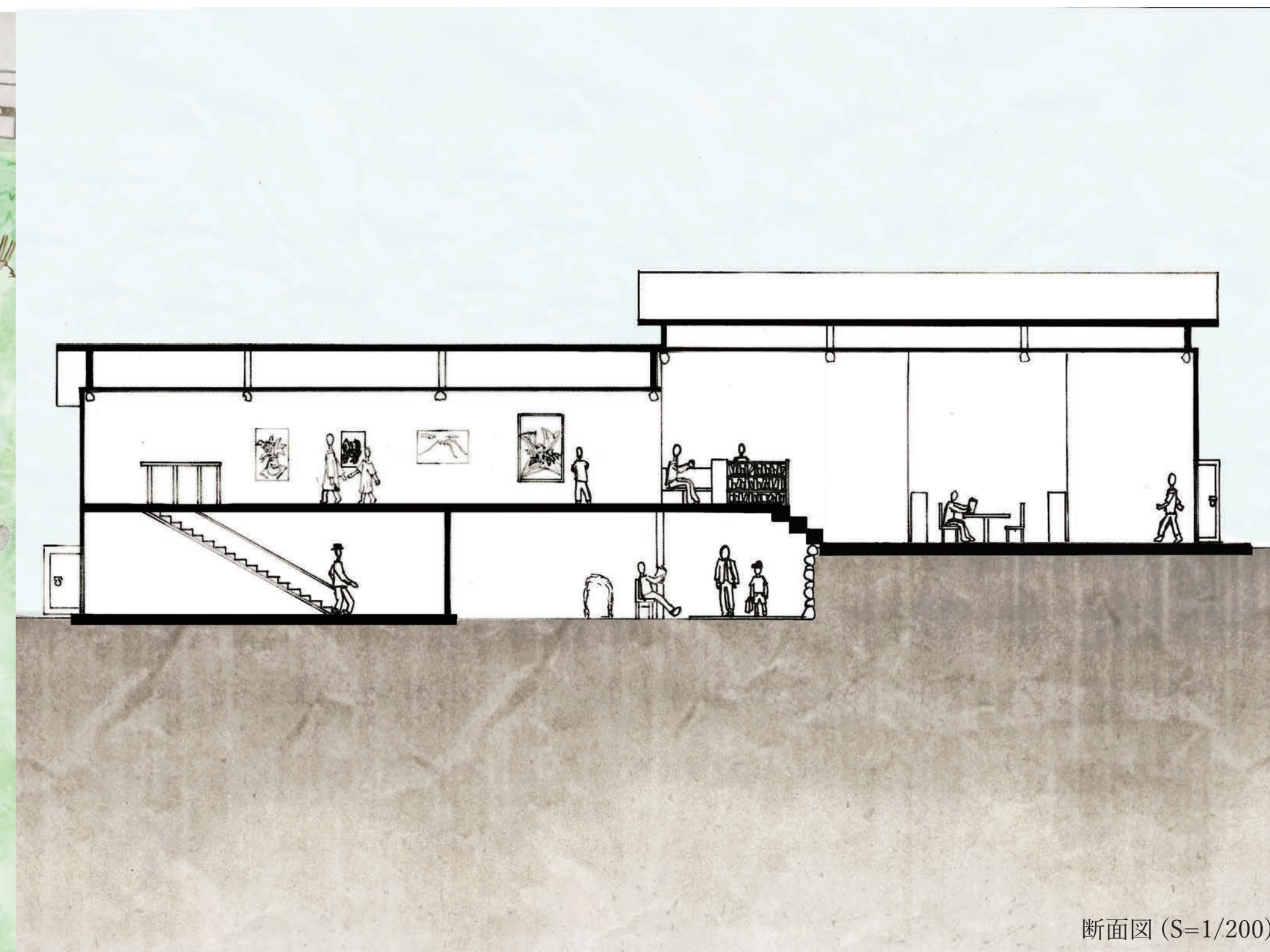
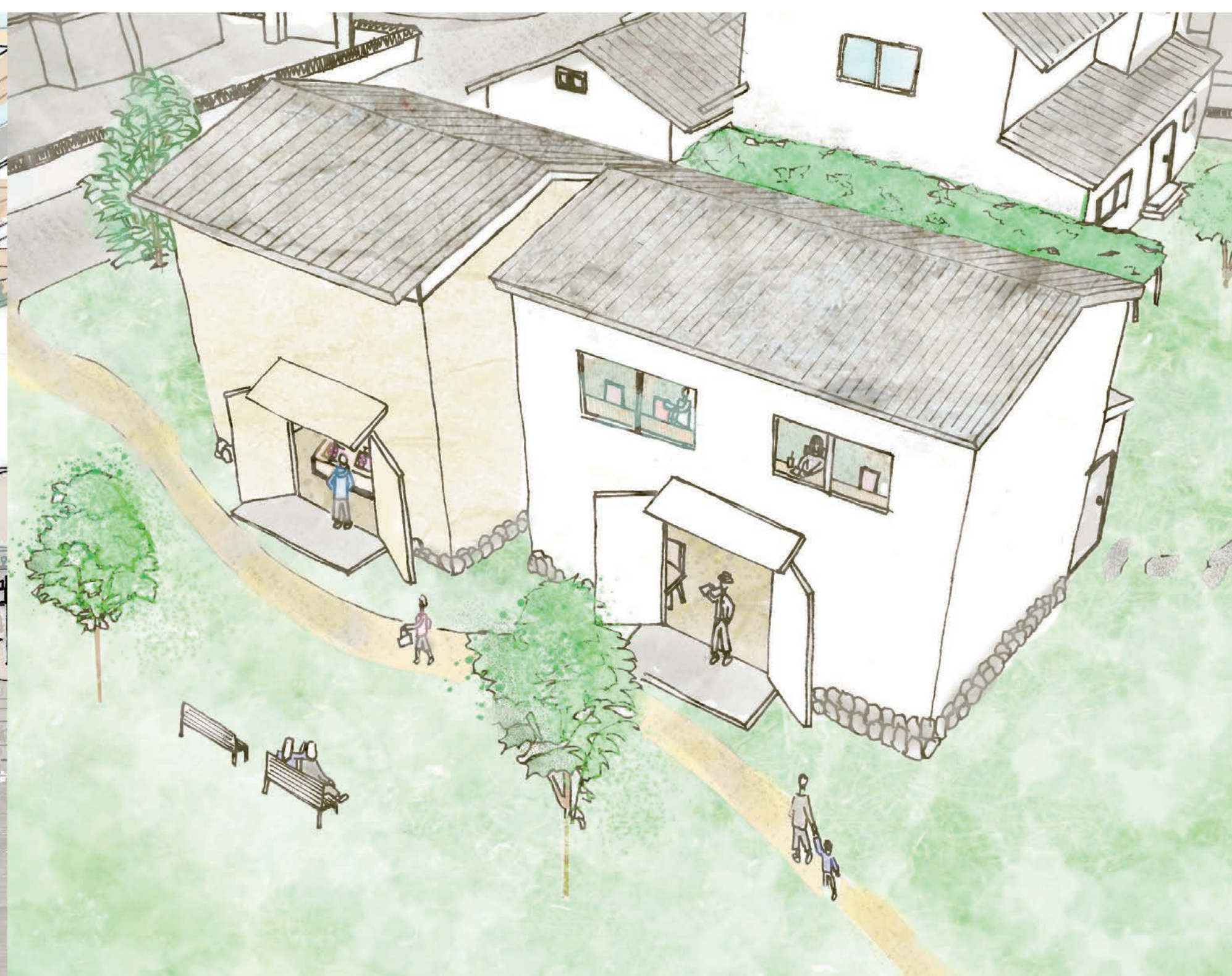
土蔵を利用したワインセラーと売店があるこのワイナリーでは、土蔵を直に感じながら須坂のワインを楽しむことができる。

・須坂葡萄園

須坂の特産品である葡萄の収穫体験ができる。通りに面した土蔵は店舗になっていて、ブドウやその加工品を販売している。

・須坂資料館

須坂市の歴史や文化を表す書、また須坂の特産品やそれを利用した作品が展示してあり、簡単に須坂史市を知ることができる。



断面図 (S=1/200)

STEP2 関わりの場

STEP1 で引かれた同線はそれに併設される空間での関わり合いにより、独自の形態へと進化していく。

若い世代をこの地に誘致するために、増える空き家を利用して居住区にご育て世代向けの賃貸と住民共用の食堂を設立する。



・関わりの形態



住民



観光客

フリーマーケットや出店での特産品の売買、イベントや講演会での交流。



住民



住民

道端での世間話や余った野菜や果物のやり取りなど、より密接な関係。

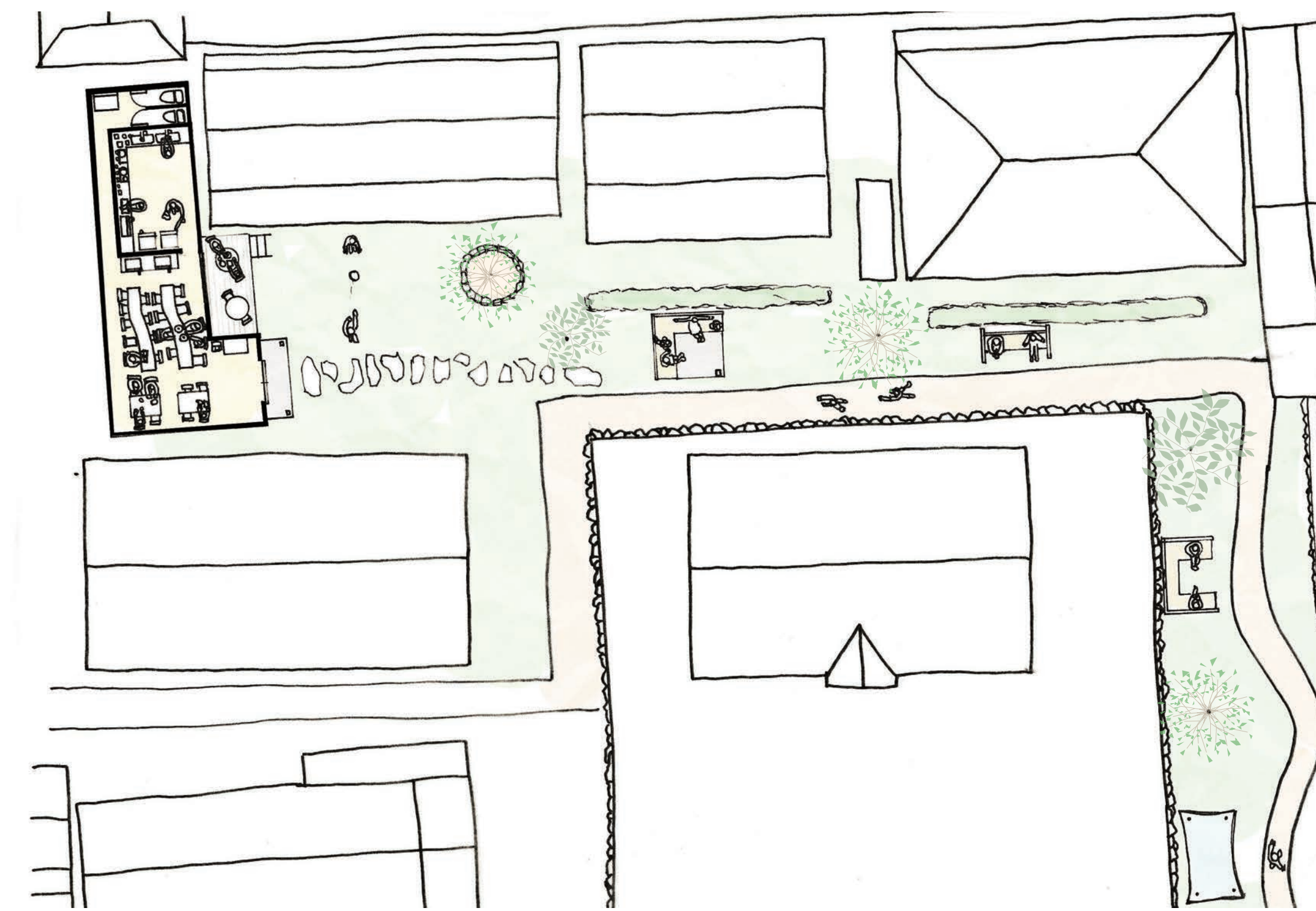
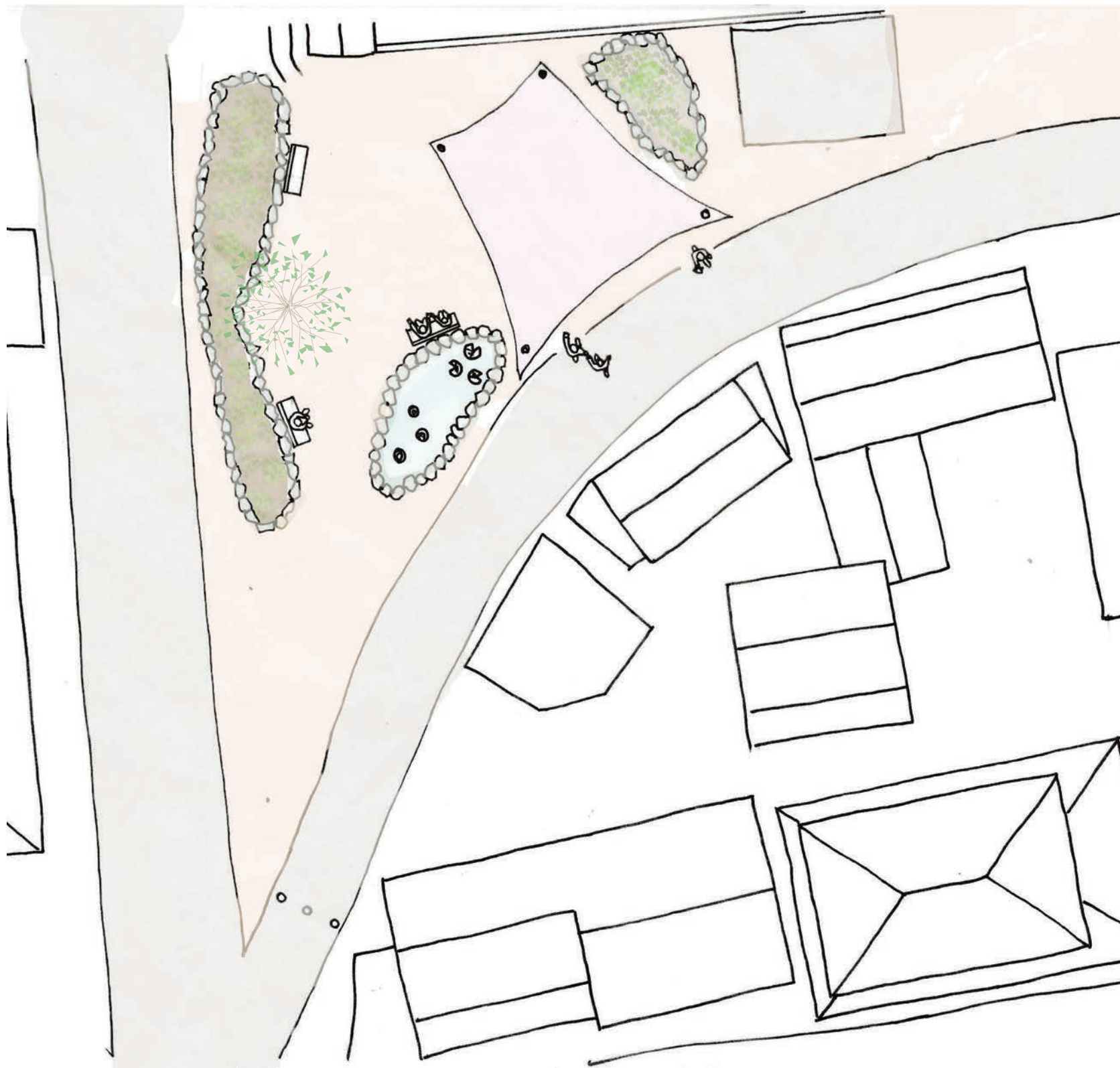


住民



転入した家族

街区内で遊ぶ子供を見守ってもらう、より良い暮らしのための助け合い。



平面図はすべて (S=1/200)

・ イベントスペース

フリーマーケット、ライブ、その他イベントが行われる。街区に人を引き込むために、通りから賑わいが見える場所に位置している。

・ 住民と観光客の関わりの場

住民が自らの畑でとれた野菜や果物などの特産品、また手工芸品を売ることができ、葡萄園と隣接している。

・ 住民の憩いの場

建物の裏に存在するスペースで、道端での立ち話や裏庭での遊戯など住民がそれぞれ憩いを楽しむことができる。



STEP3 子供が育つ場所

そして、関わり合いにより様々な魅力を兼ね備えた街区には転入者が増え、子供の姿が見られるようになる。

子供のための学びの場や地域住民との関わり合いを持てる施設の設立により子供の成長を手助けし、街区内は日常の光景で溢れかえる。

・ 古本集積所

住民から寄付された本が集積され、住民、子供、観光客が自由に利用することができる。また子供への読み聞かせや講演も行われ新たな憩いを生んでいる。



平面図 (S=1/200)



断面図 (S=1/200)

